

賀師範学校を出て以来多年教職に従事。

原田 儀市 (明治二十八年八月生) 明治四十二年

佐賀工業学校建築科を卒業後、福岡県や台湾に勤務したが大正十一年帰郷して西船津郵便局長となった。

志波 傳治 (明治十五年十二月生) 村長。

野本 一 (明治三十四年十月十二日生) 昭和四十

五年六月二十一日没) 立教大学付属中学校を経て佐賀師範学校二部を卒業後、佐賀県下各小学校の教職に従事、戦後昭和三十一年十月から四十五年六月まで川副町の教育長をつとめた。昭和四十五年春の叙勲で勲五等瑞宝章をもらった。

真島 豹吉 (明治二十五年十一月二十三日生) 大

正三年佐賀師範学校を卒業以来、多年教職に従事。特

に唱歌の教育に精魂を傾け、多くの作曲もした。昭和四十一年秋の叙勲で勲五等瑞宝章をもらった。

中島 美樹 (旧名清三・明治二十四年一月二十一日生) 昭和四十七年没) 佐中、一高、東大を出て検事、

検事正、戦後大審院検事となった。兄の駒次郎は東大出の医学博士、弟の又吉は九大出の医学博士。

深川 清太 (明治四十二年生) 立志伝中の人。東

京で多年打抜鉄工の修業を積んで独立。川副中学校の体育館などに巨額の寄付をした。

原田 文男 明治、大正時代に西川副や大詫間の小

学校教師をした原田興一の長男に生まれ、大正六年佐賀中学校を出て陸軍士官学校卒業後、歩兵から航空に転科し、済南事変とシナ事変に参加。昭和十四年陸大専科を出たが同年夏のノモンハン事件に戦闘飛行隊長

として参加奮戦中戦死。弟、三郎も熊本幼年学校と陸士を出たが昭和七年、奉天の飛行隊に入って討伐戦の際膝下切断の重傷を負った。退役飛行中尉。

七 川副町出身の軍人

西村 芳雄 (明治三十七年十二月二十二日生)

小々森に生まれ、大正十一年佐賀中学校を出て昭和三年国学院大学国史学科卒業後、同大学々生課長、伊万里中学校長、鳥栖高校長、小城高校長、佐賀高校長などを経て昭和二十八年から佐賀旭高校長、同短大専長として女子教育に専念のほか、佐賀民俗学会々長としても尽力した。

西村 熊雄 (明治三十二年一月二十七日生) 西村

秀次郎の長男に生まれ、大正六年佐賀中学校を出て十二年東大卒。外務省に入って条約局長後フランス大使などを勤めた。戦後サンフランシスコの講和会議に全権委員随員として活躍の足跡を残した。

軍人県といわれた佐賀県だけに川副町からも多くの軍人が輩出した。古いところでは、明治七年佐賀の乱で斬罪となった早津江出身の香月経五郎の実弟、香月三郎も鍋島家の援助などで士官学校を卒業し、明治末期には名古屋や大阪の連隊長までなったのである。

また佐世保鎮守府司令長官をつとめ、日露海戦にも殊勲をあげた鳥巢玉樹海軍中将が、中川副出身であったというが、後で原籍を東京に移しただろう。犬井道出身としては石丸辰一陸軍少将や、吉武安正陸軍少将などがいた。石丸辰一少将は長崎医専の配属将校の記録がある。また吉武少将は犬井道の吉武忠子家の婿養子となった人で、幼年学校から陸軍士官学校三十三期生、陸大の昭和八年卒で海外の駐在武官もした軍人であった。戦後は佐賀県軍恩連盟理事長として尽くした

が昭和四十二年二月十四日没。なお西川副出身の原田文男大佐はノモンハンで戦死した。

大佐クラスとして戦後亡くなった鹿江出身の白浜藤三元陸軍大佐は、佐賀中学校でビルマ作戦の軍司令官をした牟田口鹿也中将与同期生であった。また筆者が個人的に少年時代、その名を知ったのは大正三年の日独戦争で戦死した横尾平少佐である。佐賀中学校の明治三十五年出で歌人の中島哀浪や高田保馬博士などと同期。陸士十六期陸大二十六期（大正三年卒）であった。また若いところでは東古賀出身の今泉金吾も陸大では恩賜の軍刀組であったが、南海の上空で戦死した。

川副町出身の軍人と戦死者は紙面の都合上掲載できないほど多いが、最後に現存者として新村出身の原田次郎元陸軍中將のことを簡単に紹介する。明治四十一年川副高等小学校を出て佐賀中学校に一学期在学後、熊本幼年学校、陸軍士官学校、陸大を経て陸士教官や陸軍省勤務が多く、第二次大戦では徐州の第十七師団

歩兵団長、ミンダナオ島の独立混成旅団長から経戦当時はワイリッピン島の第百師団長であった。勲一等級四級。

八 富 豪 家

明治三十五年一月、佐賀県の富豪家一覽表の小冊子が発行された。富豪の根拠が課税額か、田畑その他動産不動産の価格か、はっきりしないが、約八十年前の富豪として、うち川副四カ村の人名が次のように記録されている。

中 川 副

弥富元太郎、村岡卯三郎、堤栄吉、弥富伴吉、岸川利三郎、久米富助、岸川助次郎、三好一八、宮原文藏、中原芳五郎、岸川峰吉、山田安一郎、前田七五郎、川浪治太郎、福島松兵衛、宮島大吉、北古賀儀

助、今泉佐七、糸山林三郎、松野傳三、野田卯八、木下勘三郎、森太一、砥川善作、山田伊三郎、田中ハル。

大 諒 間

田原儀兵衛、仁位卯十、松枝善十、中島嘉、仁位熊吉、仁位佐一郎、宮崎秀吉、角町治平次。

南 川 副

吉武豪、横尾卯八、副島芳太郎、久保幸造、田村幸逸、鬼丸亀一郎、平野練藏、北村惣三郎、山本林三郎、吉田禎造、原キミ、江島卯平、原卯一、徳永増兵衛、北島與八、川崎亀吉。

西 川 副

人物
福岡儀一、櫛山叙臣、庄司兵三郎、井原惣太郎、大坪安太郎、坂田與右衛門、野田國松、南里與吉、松

永伊左衛門、中島久之助、今泉良子、黒田重雄、福岡善次、西村忠七、真島友吉、栗林惣七、西村忠兵衛、竹下清藏、本告佐左衛門、山田龍太郎、西村熊吉、内田助太郎、伊東文七。